

株主の皆様へ

目標達成に向け着実に前進

この2年間、当社グループは存続をかけて中期経営計画「サバイバルプロジェクト」の推進に取り組んでまいりました。

サバイバルプロジェクトにおける数値目標は「2006年3月期FIV^(注)黒字化」です。FIVは、日立グループが設定している独自の付加価値基準で、投資効率の高い事業運営を行うことにより、資本コストを上回る利益を確保し、株主や投資家の皆様のご期待にそえる企業となることを目的とした指標です。

サバイバルプロジェクトの中間点である2005年3月期は、厳しい事業環境の中、期初の目標にこそ到達しませんでした。着実な歩みを刻むことができました。売上高は前期比13.6%増の386,909百万円、営業利益は前期比73.5%増の10,031百万円、当期純利益は4,991百万円(前期は2,248百万円の赤字)となりました。

売上高では、期前半のデジタル家電関連分野での旺盛な需要や、銅価の高止まりに伴い電線・ケーブル、伸銅品等の売価が押し上げられたことが大きな増収要因となりました。営業利益では、銅や化学製品をはじめとした原材料価格の急激な上昇、円高等の収益圧迫要因がありました。各種のコスト削減や生産性の改善等によって着実に増益を実現することができました。土地の売却益など4,195百万円を特別利益として計上するとともに、事業構造改善費など6,881百万円を特別損失として計上した結果、当期純利益では、前期の赤字から大幅に改善することができました。

成長分野・市場で事業拡大

サバイバルプロジェクトでは、収益拡大の戦略として「事業の選択と集中」を掲げています。そのために、市場の成長性と競争優位性を客観的に評価して、事業ごとにFIV黒字化の戦略を描き、伸ばす事業を「注力事業」として経営資源を集中させています。

2006年3月期はサバイバルプロジェクトの仕上げの年であり、目標に掲げたFIV黒字化を達成できるかどうかで、当社の真価が問われると認識しています。



そのため、収益拡大の戦略である「事業の選択と集中」をさらに徹底し、情報通信ネットワークや自動車関連、デジタル家電関連などの成長分野と、急速な経済成長を遂げている中国市場へ経営資源を集中していきます。中国地域には、現在、11箇所の製造拠点、8箇所の販売拠点を有しています。このうち2005年に入ってから、高周波同軸ケーブル、リードフレーム、トロリ線の製造会社を立ち上げたほか、情報通信ネットワーク機器の販売拠点を開設しました。これらの拠点を中国統括センタを中心として一元的に管理し、一層の事業拡大を目指してまいります。

また、グループ全体でのシナジーを向上するための施策を展開しています。事業戦略の共有、間接業務の合理化、グループ全体での徹底したコスト削減等を実現するため、グループ会社数の適正化を推進するとともに、欧米・中国・東南アジアの各地域には、グループ会社を統括する持株会社や統括センタを設置しています。

なお、サバイバルプロジェクトの内容と進捗状況については、4-5ページの特集記事をご覧ください。

FIV黒字化達成に向けて邁進

2005年3月期の当初目標であった経常利益140億円は、残念ながら達成することはできませんでしたが、業績の回復は当社グループにとって大きな自信となりました。サバイバルプロジェクトの目標である「2006年3月期FIV黒字化」達成に向けたモチベーションはさらに高まっています。

株主の皆様には、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

2005年7月

佐藤 教郎

代表執行役社長 佐藤 教郎

(注) FIV = 「税引後事業利益」 - 「投下資本額」 × 「資本コストレート」

FIVがプラスの場合、資本コストを上回る利益を上げていることを意味します。「資本コスト」は過去の業績や事業リスク等から算出しており、当社グループの資本コストレートは5%です。